

## 信越放送

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 活動名  | 小学校のメディアリテラシー・出前授業の実施 |
| 実施期間 | 令和 6 年 1 月 17 日       |
| 実施回数 | 学校 1 回                |

【実施学校】 私立長野日大小学校

### 【事業実施の成果・課題】

今回の事業は、実施日が能登半島地震の発災半月後で、実施小学校がある長野市では震度 5 弱の揺れを観測したことをうけ、授業内容の中心に、子どもたちの記憶も鮮明なこの地震を据えた。その時、放送局では、テレビで情報を伝えるためにどう動き、どう情報を発信したのかを伝えながら、ニュースができるまでや、情報を発信する際に大切なことなどを話した。多くの子どもたちは、災害発生時にはテレビで情報を得ようとしたとのことで、その際の報道フロアの動きに驚くとともに、ニュースができるまでのプロセスや情報の大切さなどへの理解が進んだようだった。

今の子どもたちは、ネット上に溢れる放送局などマスコミへの否定的な考え方にも接しているだけに、こうした機会を通じて、日々取り組んでいる姿勢や考え方、ニュースの意味などを伝えることは、地域の放送局にとっても非常に重要な取り組みであると改めて感じた。

今回は出前授業という形で、メディアリテラシーについて伝えたが、小学校での学びに貢献する様々な形を研究しながら、より一層地域の中で役割を果たしていきたい。

### 【事業担当者の感想】

今回の授業では、メディアリテラシーをわかりやすく考えてもらおうと、民教協制作の DVD 教材を交え、能登半島地震発生日の SBC 報道部の様子を動画に収めたものを使いながら、テレビニュースができるまでを説明した。授業に参加した 80 人のうち約 7 割が、地震発生時にテレビをつけたと回答したこともあり、災害時にどんな情報が必要なのか、じっくり考えてもらいながら授業を進めた。

今、何が起きているのか、正しい情報は何か。視聴者の『知りたい』に応えるために、テレビ局で働く人たちがどう動いたのか。当日の様子を伝えるとともに、旧ツイッターに上がっていた「フェイクニュース」についても説明した。東日本大震災の津波の映像が、能登半島地震のものとして実際にネットに上がっていたことに、子どもたちは驚いた様子だった。

45 分の授業を終えて休み時間に入ると、10 人ほどの子どもたちが集まってきた。「事故が起こった場所をどうやって調べているんですか?」「取材を受けたくない人には、どうするんですか?」「お休みはありますか?」「どうやったら、記者になれますか?」などと、授業内の質問コーナーでは聞ききれなかった疑問をどんどんぶつけてもらえた。DVD の熱血太郎も大変面白かったようで、授業を進めるうえで大きな助けになった。

今回の出前授業をきっかけに、自分自身でも改めてメディアの役割を考える機会となった。子どもたちという素直な視聴者の姿を前に、気を引き締めて仕事に向き合おうと心に刻んだ。

## 【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

### ＜担任・大泉教諭＞

「熱血太郎」の動画や地震の時の話などは、児童の心に強く刻まれたようだった。現場の生の声やたくさんさんの経験を踏まえた話は、教員の話や教科書からは伝わらない臨場感があった。話を聞いたあとに実施したメディアリテラシーの授業はとても進めやすく、今回、出前授業をお願いして本当に良かった。

### ＜児童の感想＞

・片方の情報だけをニュースに取り上げるのではなく、全部の意見、情報をニュースに取り上げなければいけないというのがわかってよかった。

・1月1日の地震の時の放送局の対応がわかってよかった。「デスク」というチェックをする人がいて、原稿のチェックが何回も行われていると初めて知った。

・ニュースを作るのに色々な人が関わっているのがわかった。フェイクニュースに騙されないような人になりたいと思った。

・片方の意見だけを出さないで、両方の意見を取り寄せることが大切だとわかった。事件などがあったら、まだ犯人はわかっていないのに「犯人だ！」と決めつけるのはいけないことだとわかった。

・熱血太郎も面白かった。取材やアナウンスの仕方などがわかって、とてもいい機会になった。

・地震の時にみんなニュースを伝えるために放送局に集まってきて、揺れた中でもニュースをやっているすごいと思った。